

コバナガンクビソウ *Carpesium taberi* C.Winkl.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、補正+1 (シカ食害)、総点 17。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともにもともと少なかった。近年はニホンジカによる食害で、極めて危機的な状況に追い込まれている。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部でよく分枝し、高さ 50~70cm、しばしば紫褐色をおびる。葉は互生し、下部の葉は長い柄があり、柄を含めて長さ 10~14cm、幅 2.5~4.5cm、葉身は卵状長楕円形、先端は鋭尖頭、基部はくさび形になる。花期は 8~10 月、頭花は枝の先端について點頭し、基部に頭花より長い苞葉がある。総苞は鐘球形、長さ 4mm、直径 4~5mm、総苞片は 4 列で、外片は短い。小花はすべて筒状花で、花冠は汚れた黄色である。そう果は長さ 2.5mm、冠毛はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 77977, 2002-8-24)、3 東栄 (芹沢 89014, 2013-10-9)。

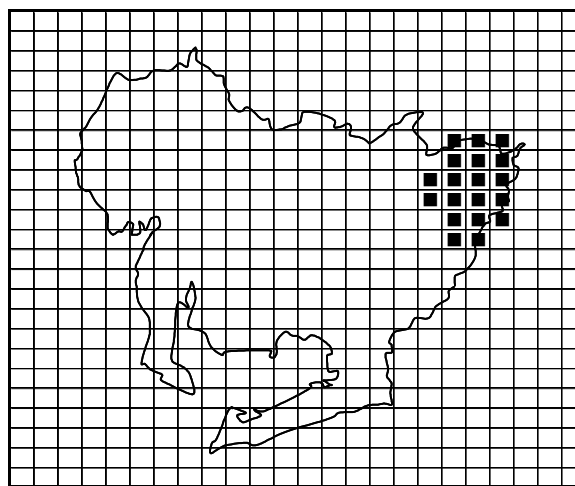
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸 (湖北省、四川省、貴州省)。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

道路沿いの明るい林縁に、少数株が生育していたが、現地はシカの食害が著しく、2013 年の調査では貧弱な 1 株とそれらしいロゼットが数株見られただけであった。周辺にはキク科植物はほとんど残存していなかった。

【保全上の留意点】

防護柵の設置を検討する必要があるが、すでに手遅れかもしれない。

【特記事項】

バンジンガンクビソウとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本 I p.72, 平草本III p.203, 平新版 5 p.353, 環境省 p.522.